

CASBEE 新築[簡易版]

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	西舞鶴合同宿舎	階数	地上7F
建設地	京都府舞鶴市	構造	RC造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	72人
気候区分	地域区分	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2010年2月 予定	評価の実施日	2009年2月18日
敷地面積	6,953 m ²	作成者	岩丸 淳
建築面積	713 m ²	確認日	2009年2月23日
延床面積	3,427 m ²	確認者	堀 恭明



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9

2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<p>環境負荷低減や居住性の向上、周囲との調和に配慮した計画としている。建物を長期的に継続利用できるよう躯体材料への配慮、設備との錯綜回避、更新性の良い設備部材の使用などに配慮している。居住環境では、住戸間の生活騒音の緩和、内装材料の選定、バリアフリーに配慮した空間計画などに取り組んでいる。また、建物に対しての適切な植栽計画と色彩計画、交通手段への十分な対応に取り組んでいる。</p>	<p>照明環境について夜間の近隣への配慮、器具による環境負荷低減性に対し適切な計画がなされている。駅近郊であり、防犯性を高めるために境界に沿ってフェンスや植栽帯を設けている。</p>	
<p>Q1 室内環境 住戸間の騒音レベル低減のため、界壁及び界床の遮音性能に配慮する。化学汚染物質を考慮した材料選定に配慮する。通気や日中の採光に対し、有効的な開口部を確保する。</p>	<p>Q2 サービス性能 躯体材料の耐用年数長期化に配慮する。設備配管などで耐久性を求められる場所への適切な材種の選定により、部品・部材の更新間隔の長期化に配慮する。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) 敷地導入路から建物周囲にかけて適切な緑地づくりを行っている。敷地境界よりセットバックさせることで近隣に対する圧迫感を軽減しつつ、アースカラーを基調とした色使いで周囲に設けた緑地に溶け込み、良好な景観</p>
<p>LR1 エネルギー 省エネタイプの蛍光灯等、省エネルギー機器を採用する。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル 節水への取り組み、及び断熱材・消化剤においてフロン・ハロンの使用を極力回避する。</p>	<p>LR3 敷地外環境 舗装材には一部透水性の材料を用い、周囲に対する熱的影響の低減に配慮する。駅に近接するとともに十分な駐車・駐輪スペースを確保しており、また回遊性を考慮した構内道路計画により混雑を回避し、周辺インフラへの負荷抑制に配慮する。</p>

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency (建築物総合環境性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい